



## 市長賞 「もしも、浦安が消えたら」 小学校5年生

### 【本人コメント】

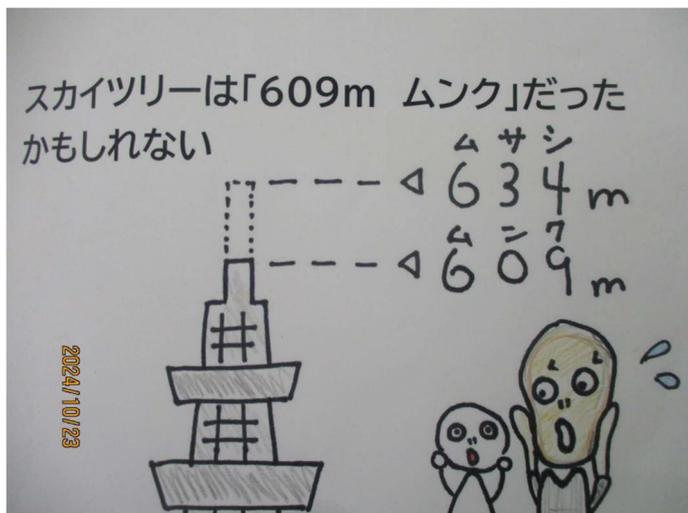
浦安の歴史や大切さをもっと知りたくて、浦安の魅力を研究することにしました。図書館で難しい本を読んだり、郷土博物館でデータを調べたり、パソコン入力にも挑戦しました。「もしも浦安が消えてしまったら」を想像して、本にまとめました。この研究を全てひっくるめてとても楽しかったです。

### 【評価コメント】

あえて、「浦安がない」世界を考えさせることで、逆に「浦安が大きな存在」であること認識させるという発想が素晴らしいです。調べ、考えたことを一冊の絵本にまとめ、分かりやすく親しみやすいものにしましたね。「もしも・・・」を考える根拠やデータもきちんと示されています。作品全体から、「浦安を誇りに思う気持ち」が伝わってきました。

### 【作品発表会原稿】

私は、博物館でジュニア学芸員をしています。いつも浦安のみりよくをみんなに伝えたいと思って活動しています。この研究では、小さい子でも分かるように、浦安のみりよくを一冊の絵本にまとめました。研究のテーマは「もしも浦安が消えてしまったら」です。私にとって、浦安はなくてはならないまちです。しかし、浦安がなかったら、私以外にも本当にしじょうが出るのか知りたくなり、調べることにしました。絵本の中では、浦安が消えたらをテーマに「浦安の歩んだ過去」と「私が想像した浦安のない世界」を比べて書いています。例えば、浦安がなかったらスカイツリーの高さはムサシ(634m)ではなく、ムンク(609m)だったかもしれません。なぜなら、スカイツリーが作られた2012年、日本の粗鋼の3.8%を浦安鉄鋼団地が支えていました。もし、浦安がなかったら634mから609mだったかもしれません。この他にも、ディズニーランドや黒い水事件、三社祭など浦安が日本に与えた影響についてまとめています。この作品を作るのに苦労したところは、調べたいことの答えを見つけることでした。図書館やインターネットでむずかしい本や資料をたくさん読んだり、博物館の学芸員さんに助けてもらって、古いデータを見たりしました。私がこの研究で分かったことは、浦安の漁師さんや役場の人たちが、たくさん悔しい思いをしながらも、一生けん命守ってきたことです。昭和46年、漁師さんたちは浦安の海を手放すことに決めました。その決心のおかげで、浦安は今とてもすてきな未来があります。もしもあの時、海を手放さなかったら、ちがう未来が待っていたかもしれません。しかし、先人の努力と歴史があるからこそ、浦安はとても自慢できる市になったのです。浦安を守り続けてくれた、先人たちに感謝し、これからも浦安市を守り続けていきたいです。



黒い水事件がきっかけとなり、1958年

「公共用水域の水質の保全に関する法律(水質保全法)」と  
「工場排水等の規制に関する法律(工場排水規制法)」の  
「水質二法」が制定されました。

そして、日本全体で海や川の水質が守られるようになり  
ました。

## 教育長賞 「うらやすメシ」 小学校2年生

### 【本人コメント】

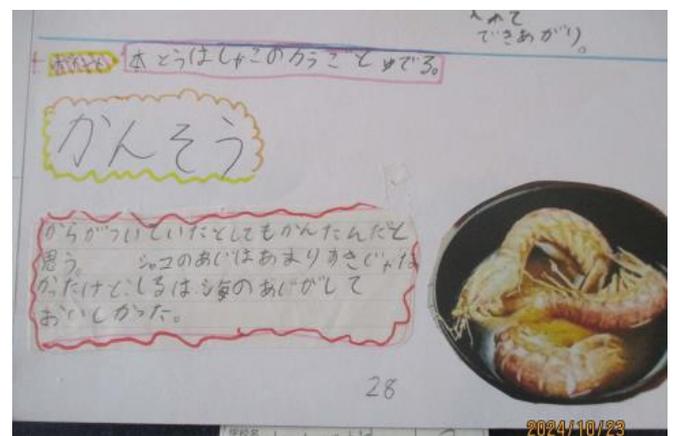
うらやすの人がむかしどんなものを食べていたのか、聞いたり、しらべたりして作ってみました。お気に入りはいわしだんごのページです。むかしは、ほうちょうをつかわずに手でいわしのみをとっていたそうです。うらやすメシのいろいろなレシピを見て、いえでも作ってみてほしいです。

### 【評価コメント】

インタビューや資料から、浦安の食文化について意欲的に調査した大作です。写真やイラストを効果的に使い、分かりやすくまとめています。たくさんのレシピが、作る手順に沿って示されており、読んでいるとつい「作ってみたい」と思ってしまいます。また、自分でも調理して、その素直な感想も表現するなど、うらやすメシを未来につなげようとする気持ちが伝わってきました。

### 【作品発表会原稿】

うらやすのごはんについてしらべました。なぜ、わたしがうらやすのごはんについてしらべたかというのと、のりすき体けんやぼったら作り体けんが楽しかったので、むかしのうらやすの人は、何を食べていたのかももっと知りたくなったからです。まず、本やDVDで、うらやすのりょうりのとくちょうや作り方をしらべました。それからむかしからうらやすにすんでいるおじいちゃんやひいおばあちゃんに話を聞いたり、いっしょに作ったりしてもらいました。そのあとお母さんといっしょに12このりょうりを作ってまとめました。この作品を作るのに、たいへんだったところは、作り方を1ページずつかくことと、ざいりょうをそろえることです。作り方を思い出しながら、きれいにまとめるのはたいへんでした。また、石がにやシャコやバカ貝は、さかなやさんでもかえなくて、むかしは、うらやすでたくさんとれたけど、今はとれなくなってしまったとおしえてもらいました。いわしだんごを作るときに、ほうちょうをつかわないで手でみをとるのもたいへんでした。この作ひんをとおして、うらやすのごはんは、おいしかったけど、おしょうゆとおおさとうをつかっているものがおおくて、あじがこいことがわかりました。今は、パンやパスタ、たこやきなどまいにちちがうものをたべることができていいなと思いました。かいものも、むかしはやおやさんやさかなやさんにべつべつに行かないといけなかったけど、今はスーパーに行けば、さかなやにくがいっしょにかえるから楽だと思いました。「今はいろいろたべられていいよ」といわれたけど、わたしは、むかしは魚や貝がたくさんとれていいなと思いました。この作品を作るために、いろいろな人からお話を聞けてありがとうございました。この作品を見た、たくさんの人にうらやすのごはんを作ってたべてみてほしいです。これではっぴょうをおわります。ありがとうございました。



## 教育長賞「見つけた！浦安の町じまんガイドブック」 小学校3学年共同制作

### 【本人コメント】

総合的な学習の時間に「浦安の町じまんを見つけよう」をテーマに、浦安市について学習しました。元町探検や三番瀬環境観察館での体験をもとに、浦安市の自慢できるところやもっと知りたいことを話し合いました。一人が1テーマを担当して調べ学習を進め、「見つけた！浦安の町じまんガイドブック」全3巻にまとめました。

### 【評価コメント】

個人ではなく、学年全体で郷土愛あるれるパンフレットづくりに取り組んだ素晴らしい作品です。一人一人がしっかりとテーマを持ち、実際の見学等を通して、詳しくまとめています。すべての児童が、調べた感想やわかったこと、次に探求したい課題等についてきちんと表現しており、意欲の高さを感じます。このような新しい取り組みが広まっていくとよいと思います。

### 【作品発表会原稿】

私たちは総合的な学習の時間に「浦安の町じまんを見つけよう」というテーマで、浦安市について調べました。元町探検や三番瀬環境観察館での体験をもとに、学年全員で「浦安市の自慢できる場所はどこか。」を話し合い、一人が1テーマを担当して、「見つけた！浦安の町じまんガイドブック」3巻にまとめました。研究のきっかけは、社会科で「浦安市はどんなところか」を学習したことです。浦安市の形がゴリラの形に見えたので「うらゴリ君」と名前を付け、元町は顔、中町は体とおしり、新町は手足と覚えました。美浜南小学校は「うらゴリ君」のちょうど心臓のところなので、びっくりしました。こうして楽しく浦安の学習がスタートしました。まず、新町にある三番瀬環境観察館に行きました。干潟で遊んで、ホンビノスガイやアカテガニ、タテジマイソギンチャクなどのたくさんの生き物を見つけました。浦安にこんなに生き物がいるなんてびっくりしました。この体験から、浦安にはまだまだ自分たちが知らないすてきな場所やヒミツがいっぱいあるのではないかと考えました。

次に元町探検に行きました。清瀧神社や豊受神社のような立派な神社や大きなお寺を見て、曲がりくねった細い道を歩いて、私たちの住んでいる中町と全然違うなと思いました。市役所の近くの探検では、郷土博物館や文化会館などのたくさんの公共施設が集まっていて、きれいで便利な町だなと思いました。こうして、元町、中町、新町の特徴を知り、「浦安にはほかにどんなところがあるのだろう。」「有名なものって何だろう」「もっと調べてみたいな。」という気持ちが大きくなりました。そして、「みんなで浦安のことを調べて、ガイドブックにまとめよう。」と決めました。これが私たちの作った「浦安の町じまんガイドブック」です。研究のまとめ方や分担は、2クラス45人が集まって、全員で話し合っ決めて決まりました。そして一人1テーマを担当して、調べてわかったことを画用紙にまとめることになりました。実際に見学してきたことをもとに、社会科の教科書「わたしたちの浦安」や図書館の本を読んだり、インターネットで「郷土博物館学習ボックス」や「あっさり君TV」を観たり、わからないことは先生に聞いたりして、一生懸命調べました。調べたことをまとめるときは、写真やイラストを上手にを使って、読む人にわかりやすいように工夫しました。最後に地域ごとにまとめて、3冊セットの図鑑のようにしました。このガイドブックづくりを通して、新しい発見がたくさんありました。①浦安には3つの地域があって、それぞれに特徴が違うこと。②昔の浦安から今の浦安まで、すごいスピードで発展してきたこと。③三番瀬の干潟のように守っていかなければならない自然があること。に気づきました。今、ガイドブックづくりの後、「未来の浦安はどんな町になってほしいか、どんな町にしたいか」を話し合っています。まだまだ知らないことがあるので、これからも「うらゴリ君」のいろいろなところに行って調べてみたいです。そして浦安に来る人たちに浦安のことを教えて、いっぱい自慢したいです。浦安市に住む人が毎日楽しく暮らすことができるといいなと思います。「町じまんガイドブック」をつくって、浦安がもっと好きになりました。これで私たちの発表を終わります。ありがとうございました。



# 教育長賞「おみこしパズル」 小学校4年生

## 【本人コメント】

三社祭でおみこしを担いだことから、おみこしについて調べてパズルにしてまとめました。紙粘土で作ったパーツの中に磁石を埋め込んでそれぞれがくっつくように工夫しました。また、ニス塗ってつやを出しておみこしらしさが出るようにしました。

## 【評価コメント】

お神輿の立体パズルという発想がユニークで、子どもが組み立てながら、楽しく学ぶことができる作品です。パズルを作りながら、お神輿の各部分について大変詳しく調べ、まとめています。つやつやの塗装もゴージャスで目を奪われてしまいます。三社祭の年にふさわしい、祭りへの思いや愛情が感じられるとても素敵な作品です。

## 【作品発表会原稿】

ぼくはおみこしパズルを作りました。この作品を作った理由は、8年ぶりに行われた浦安三社祭で、生まれて初めておみこしをかついだことが、とてもいい思い出となり、おみこしってどうやって作られているんだろう、このパーツはどうしてこんな形をしているのだろうと思ったので、今回のテーマにしました。この作品はおみこしを組み立てて遊びながら、おみこしのパーツについて知ることができます。みこしの町・行徳にある「みこしミュージアム」へ行き、おみこしが完成するまでの工程を調べたり、ミュージアムにかざられていたとても大きなおみこしの細かい部分を見て、どのような作りになっているのかを調べたりしました。パーツの名前や由来はインターネットで調べました。パズルになるパーツは紙ねん土で作り、その中にじしゃくを入れ、パーツ同士がくっつく作りになっています。ホワイトボードのパーツおき場に名前と由来を書いて、かたづけるときもパズル感覚で楽しめるように工夫しました。この作品を作るのに苦労したところは、おみこしは細かな模様で彫刻されていたり、一つ一つとても細かく作られていたりするので、紙ねん土で作ることがむずかしいところがたくさんあったことです。彫刻の部分は、彫刻師と呼ばれる職人さんが数十種類の彫刻刀を使い分け、繊細な技で立体感のある龍や獅子を彫刻します。今にも動き出しそうな彫刻は本当に細かくて、長年培った職人さんにしかできないすばらしい作品です。そして、おみこしが完成するまでとても長い期間がかかることにもびっくりしました。300年以上育った木を材料とし、おみこしの素材として使用できるまで10年以上ねかせてから作るそうです。また、おみこしの中でも一番むずかしいとされている屋根を作れるようになるまで10年の修業が必要だそうです。職人さんが何年もかけて一生けん命作って長年かつがれてきたおみこしを、ぼくが今年、浦安三社祭でかつげたことがとてもすごいことだし、とてもうれしいなと思いました。また次回の浦安三社祭で、たくさんのおみこしを見られる日が待ち遠しいです。そして、これからもこのすばらしい歴史と伝統が長く続いてほしいと思います。



# 教育長賞「浦安の水はどこからくるのか」 小学校5年生

## 【本人コメント】

昨年、浦安の汚水について研究した時に、水道水にもきょう味をもったので、今年は浦安の水パート2として水道水の研究をしました。柏井浄水場を見学して、浄水場の技術のすばらしさや下水処理場とのちがいを知りました。また、妙典給水場や送水管を見に行き、浄水場から自宅までどのように運ばれてくるのかがわかりました。近くの境川の水と水道水を比べて実験もしました。

## 【評価コメント】

「水」というテーマを取り上げ、継続研究しようとする姿勢が素晴らしいです。実際に浄水場や給水場に足を運び、自分の目で見て調査しているので、その働きや工夫が詳しく、分かりやすくまとめられています。調査だけでなく、実験で確かめている点も素晴らしいです。イラストや写真の配置を含め、ページの全体構成が工夫されていて、このまま学校の教材として使ってみたい作品です。

## 【発表会原稿】

私は、「水はどこからくるか」について研究しました。毎年、ふるさと浦安作品展に出品しています。去年は、「浦安から出た汚水は、どこに行くのか」というテーマで研究しました。その経験から、今回は水道の蛇口から出てくる飲み水がどのように作られ、運ばれてくるのかを調べてみたくなりました。千葉県浄水場の見学会があることを知り、応募したところ、当選しました。夏休みの初めに家族4人で1日かかりの見学会に参加しました。千葉県で一番大きい柏井浄水場に行き、水をきれいにする様子を実際に見て、とても驚きました。去年研究した汚水は微生物を使ってきれいにしていましたが、浄水場では機械や薬品を使っている点が違いました。また、水を作るときの力で発電したり、排水処理から出る泥で建物を作るセメントを作ったりと、リサイクルも行っていることがわかりました。印旛沼にも行き、飲み水の始まりを見てきました。とても、汚かったのですが、浄水場の技術はすばらしいと思いました。見学会の日はとても暑くて疲れましたが、別の日に市川市の妙典給水場にも行きました。そばの江戸川に浄水場から運ばれてくる給水管がかかっているのを見てきました。近くの境川にも給水管がかかっていました。私たちの飲み水は、遠くから運ばれてくるのだなあと感じました。特に、印象に残っているのは、境川の水と水道水を実験したことです。近所の境川の水は印旛沼の水と似ていて、あまりきれいではありませんでしたが、活性炭を入れたらすぐにきれいになりましたので、びっくりしました。においは、取れませんでした。浄水場の技術はすごいなと思いました。今回の研究を通して、たくさん言いたいことがあったので、まとめるのは、本当に大変でしたが、普段飲む水がどのようにできて運ばれてくるかがわかりました。浦安の公民館や小学校では、トイレの水に雨水を使っていることも知りました。安全な水を毎日使えることの大切さを改めて感じました。これからも、私たちの暮らしに必要なものがどのように作られて、送られているのかを研究して、浦安についてもっと知りたいと思っています。

